

Salon

Vol.148 2024年1月 新春号



ホール4F壁画 ポール・ゴッアマン作「チューリップ」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — 浦久俊彦
- 03 Phoenix Presents — ティートタイムコンサート2024
フェニックス・リベラルアーツ・プロジェクト vol.2
「脳科学×現代音楽」
- 06 Pick Up 井上玲リコーダーリサイタル
コンチェルト×リコーダー イタリアの熱狂、ドイツの愉悦
- 07 Essay de say — サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデンから広がる室内楽の輪

世の中を変える原動力となったイノベーションは「遊び」から生まれる

浦久俊彦さん

本公演はリベラルアーツ、建築、といったおよそクラシック音楽とは関係がないような言葉がタイトルの中心に並んでいます。それは意図した事であり、音楽を音楽としてだけで楽しむのではなく、もっと大きな芸術の枠の中で楽しんでもらおうという試みです。例えば今回のテーマであるJ.S.バッハと建築について、今回演奏するオルガン奏者の富田一樹さん曰く、「教会に設置されているオルガンは様々で、また教会によって音の響きが違う事から、演奏前には必ず教会の音の響きを入念にチェックした上でオルガンの調整を行う」とのことです。また建築家の伊東豊雄さんは、台湾のオペラハウスをはじめ、数々の音楽ホール設計に携わっており、音楽と建築についてのスペシャリストです。そんな二人をつなぎ新たな可能性を見出そうというのが本公演の企画とコーディネーターを務める文化プロデューサーの浦久俊彦さんです。浦久さんは著書「リベラルアーツ」の中で遊びを極めることの面白さについて語られています。インタビューでは本公演の狙いやリベラルアーツについてお聞きしました。

(インタビュー・構成／あいおいニッセイ同和 損保ザ・フェニックスホール 宮地泰史)



©新津保 建秀

レクチャーコンサートシリーズ34
フェニックス・リベラルアーツ・プロジェクト「J.S.バッハ×建築」いま、劇場から考える、ニッポンの文化、芸術。
2024年3月16日(土) 15:00開演 指定席 一般3,500円 友の会会員3,150円 学生(25歳以下)1,000円

- 第1部** 伊東豊雄 レクチャー (ナビゲート:浦久俊彦) テーマ「建築と音楽」
世界的に有名な台湾のオペラハウス「台中国家歌劇院」をはじめ、数々のコンサートホールを設計してきた伊東氏による建築と音楽について。
- 第2部** 富田一樹オルガンコンサート
J.S.バッハ:前奏曲とフーガ 八長調 BWV846 (平均律クラヴィア曲集より)
フーガの技法 BWV1080 より コントラプンクトゥスI、II、XII ほか
日本人初となるバッハ国際コンクール・オルガン部門優勝者が弾くバッハ音楽の真髄。
- 第3部** 伊東豊雄×浦久俊彦×富田一樹 クロストーク
建築とバッハをテーマに、バロック時代の教会から現代のコンサートホールまで、建築家の考える音楽と、音楽家が考える建築について白熱のクロストーク。

- 出演 伊東豊雄(建築家)、富田一樹(パイプオルガン)、浦久俊彦(ナビゲーター)
- チケットのお求め、お問い合わせ
ザ・フェニックスホールチケットセンター 06-6363-7999(平日10:00~17:00、土日祝休)

Toshihiko Urahisa

「リベラルアーツ」は分かれ難くつながっています。「LIBERAL」と「ARTS」というふたつの単語でできている「リベラルアーツ」という言葉を、できるだけ本意に近いカタチで日本語に翻訳すると「遊ぶためのわざ」という言葉になるのです。

浦久さんが考えるリベラルアーツとは？

ぼくにとって「リベラルアーツとは？」という問いは「世界とは何か？」と問われているようなもので、とても一言で答えられる類いのものではありません。その問いに答えるには一晩でも語り尽くせませんがそれでもいいですか(笑)？

「リベラルアーツ」は西洋語がそのまま日本に輸入されたので西洋由来のものと考えられていますがそうではありません。西洋のリベラルアーツである「自由七科」だけでなく古代インドの「五明」や古代中国の「六芸」など、洋の東西を超えて古代から継承されてきた人類の叡智のことです。日本の古典である『風姿花伝(※3)』や『葉隠(※4)』なども広い意味ではリベラルアーツです。

では、その世界のリベラルアーツと呼ばれるものがどのような精神から生まれてきたのか。その根源には人類がずっと問い続けてきたひとつの問いがあります。「世界とは何か？宇宙とは何か？」という問いです。洋の東西を超えたりベラルアーツの精神とは、あえて一言で言えば「世界を読み解くための『視点』」であり、世界を読み解くための「言語」である」といえます。

リベラルアーツを踏まえた上で、今回の公演の面白さとは？

「音楽」と「建築」という、まったく異なるようにみえるものが、なぜつながるのか？この公演の企画は、このひとつの問いからスタートしました。

「音楽」と「建築」は、ともに「空間」と「時間」というふたつの領域を貫いて存在しているだけに、切り離せないほど深く関わっています。古代ギリシアの哲人ピュタゴラスが「万物は数なり」という

浦久さんは、著書「リベラルアーツ」の中で遊びを極めて賢者になると書かれていますが、浦久さんの考える遊びとはどのようなものでしょう？

「遊び」という言葉は、仏教用語の「遊戯(ゆげ)三昧の境地(※1)」にもあるように、もともとは「何事にもとらわれない自由自在な精神」を意味する言葉です。日本では本来「あそび」とは、神霊や神々があそぶという神聖な芸能を指していました。それは「あそばせ」「あそばす」という貴人が用いた最上の敬語にも残っています。建築用語にもある「あそび」は、建造物から人間関係まであらゆる物事を円滑にするための太古の知恵でもあったのです。そして、「遊びの文化史」ともいえるホイジンガ(※2)の名著『ホモ・ルーデンス』では「遊びは文化よりも古い」という言葉のなかに人類の歴史のなかで「遊び」がいかに根源的なものかを説いています。

世の中を変える原動力となったイノベーションは「遊び」から生まれる、とぼくは考えています。レオナルド・ダ・ヴィンチやスティーブ・ジョブズなど、偉大なイノベーターは例外なく「人生を遊ぶ人」であり「無駄なことをできる人」でもありました。ところが現代の日本では、残念ながらその「遊び」の自在さという精神が失われていて、まるで「遊び」が「勉強」や「仕事」の反意語のように用いられてきました。「遊んでないで勉強しなさい」とか、「遊ぶな、仕事しろ！」という言葉にそれがあらわれています。でも、本当は「遊んでいるように楽しく学ぶ」ことや「遊ぶように生き生きと仕事をする」ことが大切なのではないのでしょうか。

現代は「経済的な豊かさを追い求める時代」から、「文化的な豊かさを取り戻す時代」に確実にシフトしようとしています。「人が経済的・物質的に豊かになることが幸福と考えられた時代から、人と自然がともに幸福な世界とは何かを、ひとりひとりが考える文化をつくる時代」に転換しているいま、必要なのは仕事や学びを「work(労働)」ととらえるのではなく、「play(遊ぶ)」という精神です。時代が求めているのは「worker」より「player」なのです。

「人生を遊ぶにつづける」とことは、実はとてつもなく難しいことです。お金があって生活に困らない人はたくさんいますが、彼らが人生を遊んでいるとは限りません。そもそも人生を遊んで生きている人になかなかお目にかかれません。それは、ある意味ではとても厳しい生き方を貫くことでもあるからです。

では、どうすれば人生を遊ぶにつづけることができるのか？そのために身につけるべきこと。それが「リベラルアーツ」です。ぼくにとって「遊び」と

言葉によって、それまで耳だけが感じていた音と音が調和する関係を、単純な整数比という数の比率で解き明かしたように、古代から音楽の美しい音色や和音の響きは、建造物の美しさにつながっていると考えられてきました。「神の家(ドムス・デイ)」としての教会建築は、中世キリスト教にとって、もっとも神聖なプロジェクトですが、中世の建築家たちは、完璧なプロポーションを宇宙の調和として数の比率に求めました。そこで活用されたのが、「音楽的な調和比の美」だったのです。

「ゴシック建築は巨大な石造の交響楽である」と語ったのは、19世紀フランスを代表する文豪ヴィクトル・ユゴーですが、20世紀を代表する建築家のひとり、ル・コルビュジエは、「音楽は動いている建築である」と語ったように、偉大な文学者や建築家たちも、建築と音楽を結びつけて考えてきました。

バッハの対位法的な音楽は、まるで緻密に構成された音による建造物を思わせます。ドイツでオルガンと古楽を学び、ライプツィヒ第20回バッハ国際コンクールで日本人初となる第一位を受賞したオルガン奏者・富田一樹が奏でる緻密なバッハの音楽に流れる「構造美」と「自然と建築がひとつになること」を目指してきた日本を代表する建築家・伊東豊雄が語る建築の「美しさ」をつらぬくものは何か―。このことを、ぜひ来場されるすべてのみなさまとともに考え、体感していただき、「音楽」と「建築」をつなぐという「知的興奮の世界」で、みなさまとともに遊びたい。これが、今回のテーマを選択した理由であり、今回の公演の面白さともいえるでしょう。

- ※1 仏のように自由自在な境地
- ※2 ヨハン・ホイジンガ(1872-1945)。オランダの歴史学者。著書に「中世の秋」「ホモ・ルーデンス」などがある。
- ※3 世阿弥が記した能の理論書。
- ※4 武士の心得について書かれた江戸時代の書物。

大学などの授業でも取り上げられるリベラルアーツ。しかし、真のリベラルアーツとは、その歴史をひもとけば、授業で教えられる教養のようなものではなく、より深い「遊び」の精神である。本書はリベラルアーツの本質を個人個人がどのように活かし、生きやすい未来へつなげていくべきか、その方針を提案する、まったく新しいリベラルアーツ本。

文化芸術プロデューサーとしてコンサートホールの企画などに携わる著者が自身の活動を例に、「文明」「教養」「大衆」という三つの価値観をあらためて問い直し、これからの時代に必要なのは教養ではなく、「共養」であると提案する。そしてリベラルアーツを活かして市民が文化をつくる「未来型の文化的な社会」への道筋を語る。

背後からやってくる未来を掴かせる わざ

リベラルアーツの本質の究極 未来に必要なのは教養ではなく「共養」! 江戸から学ぶ遊びの哲学

「freedom」と「liberty」2つの「自由」の違い

2024年度 ティアタイムコンサートシリーズ [169]~[174]

友の会会員年間セット券は、とってもお買い得！
チケットご予約時にもご入会いただけます。

1公演あたり
約3,300円に！

金曜の午後2時スタート。都心に立地し、抜群の交通アクセスで関西一円から多くの皆様においでいただけるホールの特性を生かし、1995年のホール開設以来、お楽しみいただいています。一流のアーティストを起用し、昼間の気軽な雰囲気、夜の演奏会にも劣らぬ上質な「生」の音楽をお届けいたします。2024年度も6公演をラインナップ。期待の若手から円熟されたベテラン奏者まで様々な室内楽をご用意しました。お得な年間セット券で、ザ・フェニックスホールが自信をもって贈る「スペシャル・マチネ」をどうぞご堪能ください。

年間セット券
一般 ¥24,000

友の会会員 (お一人様2席まで) ¥20,000

※年間セット券・学生券は当ホールチケットセンターのみのお取り扱い。
※1/27(土)~2/16(金)は、6公演同じ席でのご予約受付となります。
※1公演毎のご購入も可能です。2/17(土)から承ります。

FRIDAY 2 o'clock
14:00開演
指定席 お菓子つき

今回から発売方法が変わります！
1月にセット券を販売し、2月に1公演ずつの予約を承ります。

	ザ・フェニックスホール 友の会優先予約	E-PHX(イー・フェニックス) 優先予約	一般発売
セット券	1月27日(土) 10:00受付開始	1月29日(月) 10:00受付開始	1月30日(火) 10:00受付開始
1回券	2月17日(土) 10:00受付開始	2月19日(月) 10:00受付開始	2月20日(火) 10:00受付開始

インターネット予約によるお申込みは、セット券、1回券とも一般発売翌日から。
*各発売日初日は、電話予約のみのお申込みとなります。1/27(土)・2/17(土)はティアタイム公演発売日のため特別営業。

ホール主催・共催・協賛公演チケットのお申し込み方法

06-6363-7999
土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - 主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
 - 友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時に電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。
- E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
 - E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - 事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。
- 一般発売
 - 一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

<https://phoenixhall.jp/>
チケットセンターのページからお申込みください

- インターネット予約 (主催公演のみ)
 - ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますが電話でお問合せください。
 - ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - 学生券のインターネットによるご予約は受付いたしていません。
 - チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

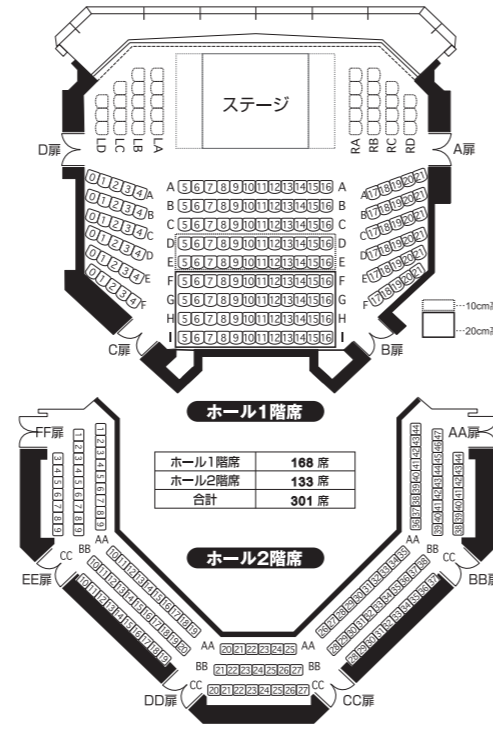
直接のご来店による
お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物8階、エレベーターを降りて廊下右手です。

チケットお申込み後のお受け渡し方法

電話予約後に郵便振込をしていただき、入金確認後にチケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律450円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール



第169回
5/24
金

一般4,000円(友の会会員3,600円) 学生(25歳以下)1,000円

揺るぎない王道、精緻の響き
ウェールズ弦楽四重奏団

- 出演 崎谷直人、三原久遠(以上、ヴァイオリン)、横溝耕一(ヴィオラ)、富岡廉太郎(チェロ)
- 曲目 ハイドン:弦楽四重奏曲 変ロ長調「狩」op.1-1
モーツァルト:弦楽四重奏曲 変ロ長調「狩」K.458
ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第13番「大フーガ付」変ロ長調 op.130/133

ウェールズ弦楽四重奏団は、ミュンヘン国際音楽コンクール第3位、大阪国際室内楽コンクール第3位の実力派。現在は各メンバーが日本のトップオーケストラ首席クラスに在籍しながら弦楽四重奏団としても積極的に活動し、2024年度は世界のトップ・カルテットが出演するサントリーホール・室内楽シリーズ、ベートーヴェン・サイクルに起用されるなど、今、最も脂がのったグループです。プログラムも迷いなき王道であり、メインはベートーヴェン不朽の名作、第13番。もう間違いありません。ウェールズ弦楽四重奏団の充実した演奏をお楽しみください。



©Satoshi Oono

第171回
7/19
金

一般3,500円(友の会会員3,150円) 学生(25歳以下)1,000円

新世代が奏でる希望の足音を聴く
山根一仁(ヴァイオリン)×小林海都(ピアノ)
デュオリサイタル

- 出演 山根一仁(ヴァイオリン)、小林海都(ピアノ)
- 曲目 モーツァルト:ヴァイオリンソナタ ト長調 K.301
クライスラー:愛の喜び、中国の太鼓
武満徹:悲歌
ラヴェル:ヴァイオリンソナタ ト長調
ショスタコーヴィチ:ヴァイオリンソナタ ト長調 op.134
バルトーク:ラプソディ 第1番

中学校在籍中に日本音楽コンクールで優勝し、気鋭のソリストとして活躍してきた山根一仁さんと、2021年に離別国際ピアノコンクールで46年ぶりに日本人歴代最高位となる第2位となった小林海都さんによるデュオリサイタル。二人は共に1995年生まれで同世代、数年前に初共演で意気投合し、それ以来デュオでの活動の幅を広げています。今回のプログラムもかなり刺激的。前半は言わずと知れたヴァイオリンの有名曲で固め、後半は20世紀に書かれた挑戦的な曲が並びます。どれも非常に面白く個性的な曲ですので、この新世代デュオがどのように料理するのか楽しみです。



©K.MIURA ©Tsumomi Yagshita

第173回
10/25
金

一般4,500円(友の会会員4,050円) 学生(25歳以下)1,500円

深化する巨匠
堤剛 チェロリサイタル

- 出演 堤剛(チェロ)、田中英明(ピアノ)
- 曲目 フレスコバルディ(カサド編):トッカータ
ベートーヴェン:「魔笛」の主題による7つの変奏曲 変ホ長調 WoO.46
シューベルト:アルペジオ・ネソナタ イ短調 D821
藤倉大:つつむ
シューマン:民謡風の5つの小品 op.102
ラヴェル:ハバネラ形式の小品
ピアソラ:ル・グラン・タンゴ

誰もが知るチェロの巨匠がザ・フェニックスホールのティアタイムコンサートに初登場。傘寿を超えて尚その活動は旺盛で、最近では2020年にウィーン・フィル来日公演のソリストとして喝采を浴びた他、ピアニストの小菅優さんや河村尚子さん、萩原麻未さんとのデュオも素晴らしい、記憶に新しいところ。今回は、堤さんが音楽監督を務める霧島国際音楽祭で活躍を見せた田中英明さんを迎え、チェロの名曲をお届けします。まだまだ深化する巨匠にご期待ください。



©鍋島徳彦

第170回
6/14
金

一般4,000円(友の会会員3,600円) 学生(25歳以下)1,000円

圧倒的な実力と人気を兼ね備え、初めて挑むバッハ
朴葵姫 ギターリサイタル

- 出演 朴葵姫(ギター)
- 曲目 J.S.バッハ:リュート組曲 BWV998
J.S.バッハ:シャコンヌ
J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンソナタ 第3番
バリオス:最後のトレモロ
バリオス:大聖堂
タレガ:アルハンブラの想い出 ほか

朴葵姫さんはクラシックギター界において独自の世界観を構築し、トップランナーとして走り続けています。彼女は、ソロのみならず多くのオーケストラとも共演し、圧倒的存在感で聴衆を魅了しています。そんな彼女が初めて本格的にバッハに取り組み、今春、渾身のオール・バッハ・アルバムをリリースします。今回の公演ではバッハの作品とクラシックギターの名曲をセレクトしてお届けします。



©changho

第172回
8/2
金

一般4,000円(友の会会員3,600円) 学生(25歳以下)1,000円

フィンランドの名匠が弾く、ベートーヴェン最後の3つのソナタ
アンティ・シーララ
ピアノリサイタル

- 出演 アンティ・シーララ(ピアノ)
- 曲目 ベートーヴェン:ピアノソナタ 第30番 ホ長調 op.109
ピアノソナタ 第31番 変イ長調 op.110
ピアノソナタ 第32番 八短調 op.111

リーズ国際ピアノコンクール優勝をはじめ、多くのコンクールを制し、現在ではミュンヘン音楽大学、シベリウス音楽院でも教授活動に力を注ぐアンティ・シーララがザ・フェニックスホールに初登場！プログラムには「音楽の「新約聖書」とも読まれているベートーヴェンのピアノソナタから、後期三大ソナタをセレクト。ピアノ音楽の集大成的作品であり難曲揃いと名高い後期三大ソナタ、フィンランドが誇るベートーヴェン弾きによる、音楽性と美音を体感してください。



©Tibor Bozi

第174回
11/15
金

一般5,000円(友の会会員4,500円) 学生(25歳以下)1,500円

チェコ×日本、名手によるピアノ三重奏の名曲
ミハル・カニユカ
ピアノトリオ・プロジェクト

- 出演 ミハル・カニユカ(チェロ)、漆原朝子(ヴァイオリン)、伊藤恵(ピアノ)
- 曲目 ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第7番 変ホ長調「大公」op. 97
チャイコフスキー:ピアノ三重奏曲 イ短調「偉大な芸術家の思い出」op. 50

ミュンヘン国際音楽コンクール・チェロ部門最高位他、数々の国際コンクールに上位入賞を果たし、現在はブラハの春国際音楽コンクール会長などの要職を務めるチェコを代表する音楽家ミハル・カニユカさんと、現在は東京藝術大学の教授であり、ミュンヘン国際音楽コンクール・ピアノ部門で日本人として初優勝した伊藤恵さん、日本国際音楽コンクール(ヴァイオリン部門)を最年少で優勝した漆原朝子さん3人による超豪華なピアノトリオが実現。プログラムもこの3人に相応しい歴史的名曲を選曲。ピアノ三重奏の醍醐味を存分にお楽しみください。



ザフェニックスホール
友の会優先予約

2月17日(土)
10:00 受付開始

イーフェニックス
E-PHX優先予約

2月19日(月)
10:00 受付開始

一般発売
2月20日(火)
10:00

インターネット予約による
お申込みは2月21日10:00から!

※発売日当日は電話予約のみ

■レクチャーコンサートシリーズ35

2024年 6月30日(日) フェニックス・リベラルアーツ・プロジェクト vol.2 「脳科学×現代音楽」

いま、劇場から考える、ニッポンの文化、芸術。

15:00開演 指定席 一般¥3,500(友の会会員¥3,150) 学生(25歳以下)¥1,000

よりよい社会のために、いま、劇場に何ができるのか?これまでの「演じる舞台」としての劇場から「語る劇場」へ。音楽、建築、文学、数学、演劇、美術、哲学など、あらゆる分野の領域を越えて、ひとつにつながるリベラルアーツの知をよりよい社会づくりに活かします。ザ・フェニックスホールの舞台から、新たな知の挑戦です。

出演 茂木健一郎(脳科学者)、中川賢一(ピアノ)、浦久俊彦(ナビゲーター)

第1部 茂木健一郎レクチャー (ナビゲート:浦久俊彦) 「脳からみた音楽」～脳科学者が語る音楽の神秘
〈クオリア〉をキーワードに、脳と心の間を探究する脳科学者であり、文筆家、批評家としても幅広く活躍する茂木健一郎が、こよなく愛する音楽を語り尽くす!「わたしたちが音楽を愛するのは、それが生命のあり方に似ているから」と語る脳科学者ならではの視点から、生命原理と創造性の本質にせまります。

第2部 中川賢一 20世紀音楽の展示室
メシアン、ジョン・ケージ、スティーヴ・ライヒ、武満徹など、20世紀音楽のスペシャリストとして活躍するピアニスト中川賢一ならではの、静と動の位相が響く躍動的なステージ。(プログラム未定)

第3部 茂木健一郎x浦久俊彦x中川賢一 クロストーク 音楽はどこに行くのか?～脳とAIと未来の音楽
〈ノイズ〉〈偶然性〉〈ミニマル〉など、それまでの伝統的な音楽世界を超えて、社会変革をもたらそうとした20世紀音楽。いま、ぼくたちは未来に、どのような音楽を聴こうとしているのか?脳科学と現代音楽家の知性と音感がクロスする、スリリングなリベラルアーツ・トーク!



■フェニックス・エヴォリューション・シリーズ108 主催 井上玲リコーダーリサイタル実行委員会

2024年 5月14日(火) 井上玲リコーダーリサイタル


コンチェルトxリコーダー イタリアの熱狂、ドイツの愉悅

19:00開演 自由席 一般前売4,000円(友の会会員3,600円) 当日4,500円(友の会会員4,050円) 学生(25歳以下)前売2,500円 当日3,000円

出演 井上玲(リコーダー)、大内山薫、高橋亜季(以上ヴァイオリン)、門倉佑希子(ヴィオラ)、永瀬拓輝(チェロ)、曾根田駿(チェンバロ)

曲目 ヴィヴァルディ:リコーダー協奏曲 八短調 RV 441、ト長調 RV 443
サンマルティーニ:リコーダー協奏曲 へ長調
テレマン:リコーダー協奏曲 八長調 TWV 51:C1、ト短調(ハラッハ・コレクションより)
ファッシュ:リコーダー協奏曲 へ長調 FaWV L:F6

リコーダーといえば、誰もが小・中学校で吹いた楽器。そんなリコーダーが華々しい主役を務める「リコーダー協奏曲」をご存知ですか?時は遡り1700年代初頭、バロック時代のリコーダーはプロ・アマチュアともに人々に広く愛された流行の楽器でした。その手軽さと奥深きゆえ、流行の俗謡から本格的なソナタに至る広範なレパートリーを持ちますが、最も輝かしい存在感を放つのは何といってもリコーダーのための協奏曲です。えも言われぬ甘い音色と目の覚めるような技巧で一世を風靡した当時の名手たち。彼らが見事な技量を披露したリコーダー協奏曲の数々から、選りすぐりの6作品を今宵、お届けします。リコーダー独奏を務める井上玲は2021年、弱冠23歳にして権威あるドイツ・テレマン国際古楽コンクールで第2位と聴衆賞を受賞した、新進気鋭のリコーダー奏者。安定したテクニックとニュアンスに富んだ表現力には定評があります。300年前の人々が熱狂したリコーダー音楽を味わいに、ザ・フェニックスホールへ足をお運びください。



あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。


協賛公演 山田剛史 ピアノリサイタル ～音の彼方～ 主催 iroha音楽企画

発売中 2024年3月31日(日) 14:00開演 自由席 一般前売・当日¥4,500(友の会会員¥4,000) 学生前売・当日¥3,000

出演 山田剛史(ピアノ)

曲目 J.S.バハ:カプリッチョ「最愛の兄の旅立ちに寄せて」変ロ長調 BWV992
ヤナーチェク:霧の中で
ショパン:3つのマズルカ op.59、幻想ポロネーズ op.61
リスト:(詩的で宗教的な調べ)より孤独の中の神の祝福
杉山洋一:君が微笑めば、それはより一層澄んでゆく

ピアニスト 山田剛史がライフワークとする、「音の…」と題されたりサイタルシリーズ。バロックから近現代まで、作曲された時代や場所を超えて共鳴し合う、さまざまな「音の姿」を探ります。10代のバハが慕っていた兄へ宛てて書いた作品、特に現代作品の指揮者としても著名なミラノ在住の作曲家 杉山洋一の若き日の大作、ショパンやリスト、ヤナーチェクの名作とともに「音の向こう側」へと思いを馳せます。



協賛公演 猪居亜美(ギター) CLASSIC×ROCK 主催 合同会社Moon

1/22(再)発売 2024年4月6日(土) 14:00開演 指定席 前売¥4,000(友の会会員¥3,500) 当日¥4,500(友の会会員¥4,000)

出演 猪居亜美(ギター)

曲目 カステレード:インベンション No.2(ピンク・フロイド賛歌)
フローウェル:ラ・グラン・サラバンダ
ガンズ・アンド・ローゼズ:Sweet Child o' Mine
オジー・オズボーン:Goodbye to Romance ほか

第39回GFA(Guitar Foundation of America)ギターコンクール第4位を受賞したクラシック界の新星。幼き頃からROCKを愛し自身のYouTube演奏したROCK曲は547万回を再生。猪居が愛してやまないROCK曲を選りすぐりニューアルバムをリリース。満を持して待望のリリース記念公演が決定!




協賛公演 辻本玲 チェロリサイタル 主催 フィリー企画

発売中 2024年4月12日(金) 19:00開演 指定席 一般前売¥4,000(友の会会員¥3,600) 学生前売¥1,500 当日¥2,000

出演 辻本玲(チェロ)、津田裕也(ピアノ)

曲目 ベートーヴェン:チェロソナタ 第2番 ト短調 op.5-2
R.シュトラウス:チェロソナタ へ長調 op.6
シューマン:民謡風の5つの小品 op.102
ウェーベルン:チェロとピアノのための2つの小品、チェロソナタ、チェロとピアノのための3つの小品 ほか

昨年続き、素晴らしいピアニストの津田裕也さんをお迎えしてリサイタルを開催します!ロマン派の名曲でもある、生誕160年を迎えるR.シュトラウスのチェロソナタを中心にベートーヴェンの2番のチェロソナタ、そしてシューマンの“民謡風の五つの小品”など盛りだくさんのプログラムです。そして、極限まで音を削ぎ落としたウェーベルンの不思議な音楽(中には数秒で終わってしまう曲も!?)もぜひ聴いて頂きたいです!



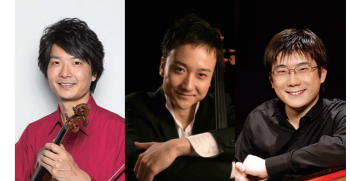
協賛公演 トリオ・スペリオールvol.4 ～忘れられたロマンス～ 主催 Concerto di Primavera (コンチェルト・ディ・プリマヴェーラ)

1/27(土)発売 2024年4月14日(日) 14:00開演 指定席 前売・当日¥5,000(友の会会員¥4,500) ※友の会割引はお1人様2枚まで。割引は前売のみ

出演 泉原隆志(ヴァイオリン)、上森祥平(チェロ)、佐藤卓史(ピアノ)

曲目 シューベルト:ピアノ三重奏曲 変ホ長調 「ノットゥルノ」 op.148, D897
メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 op.49
スメタナ:ピアノ三重奏曲 ト短調 op.15

トリオ・スペリオール、今年も開催いたします!曲の随所にシューベルトならではのロマンティックな味わいを漂わせる「ノットゥルノ」、三重奏の魅力を存分に発揮するメンデルスゾーンのピアノ三重奏曲第1番、そして民族的ロマン派を代表するスメタナの“音で描く青春自画像”ともいえるピアノ三重奏曲をお届けします。スペリオールの至福の響きをお楽しみください!




協賛公演 “KCM Concert at The Phoenix Hall, Osaka”～関西圏の最大拠点 大阪梅田で展開する芸術音楽～ イノン・バルナタン(ピアノ) 主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中 2024年4月15日(月) 19:00開演 指定席 S席前売・当日¥6,000(友の会会員¥5,400) A席前売・当日 ¥4,000(友の会会員¥3,600) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 イノン・バルナタン(ピアノ)

曲目 ラモー:『新クラフサン組曲集』より 組曲 ト長調 RCT6
ラヴェル:高雅で感傷的なワルツ
ストラヴィンスキー(G.アゴ스티編):バレエ音楽『火の鳥』より 魔王カステイの凶悪な踊り、子守歌、終曲
ラフマニノフ(バルナタン編):交響的舞曲 op.45

「同世代で最も称賛されるピアニストの一人」(ニューヨーク・タイムズ紙)であるイノン・バルナタンは、その詩的な感性、音楽的知性、完璧な芸術性で賞賛されている。世界有数のオーケストラや指揮者の常連ソリストであり、ニューヨーク・フィルハーモニックの初代アーティスト・イン・アソシエーションを3シーズンにわたり務めた。




協賛公演 ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽 主催 コジマ・コンサートマネジメント

発売中 2024年4月19日(金) 19:00開演 指定席 S席前売・当日 ¥8,500(友の会会員¥8,000) A席前売・当日¥7,500(友の会会員¥7,000) ※友の会割引は前売のみ。限定数。

出演 アレクサンダー・イヴィッチ(ヴァイオリン)、オラフ・マニングァー(チェロ)、ヴェンツェル・フックス(クラリネット)、オハッド・ベン＝アリ(ピアノ)

曲目 ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第5番 二長調「幽霊」 op.70-1
ブルッフ:「8つの小品」 op.83より 第1曲、第2曲、第5曲、第7曲
ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲 第4番 変ロ長調「街の歌」 op.11
W.ラブル:クラリネットとヴァイオリン、チェロ、ピアノのための四重奏曲 変ホ長調 op.1

お待たせいたしました!ベルリン・フィルの精鋭たちによるベートーヴェン、ブルッフ、そしてクラリネットの名手と共にW.ラブルの作品を。2024年・春もこの期待の公演をお聴き逃しなく!!




協賛公演 シューベルト《美しき水車小屋の娘》 —その世界を味わい尽くす— 主催 オフィスアルシュ

発売中 2024年4月20日(土) 17:00開演 自由席 前売・当日¥4,000(友の会会員¥3,500) ※友の会割引はお1人様2枚まで。

出演 水越啓(テノール)、柴田健、福山敦子(以上ギター)

曲目 シューベルト:美しき水車小屋の娘 op.25, D795

ウィーンに生きたシューベルト。歌曲集「水車小屋の娘」は当時名だたる友人たちに愛され、異稿やギター伴奏など多様な演奏スタイルが広がっていた。今回、ヨーロッパを中心に国内外で活躍するテノール水越の清新な美声と日本を代表するギターデュオ、柴田自身による見事な編曲版をもって、作品の新たな可能性の扉が開かれる。



Essay de say エッセイでっせ

2023年度「エッセイでっせ」(全6回)は、各地で開催されるユニークなホールの取り組みについてご紹介します。

サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデンから広がる室内楽の輪



サントリーホールでは毎年6月、室内楽フェスティバル「チェンバーミュージック・ガーデン(CMG)」を開催しています。「色とりどりの室内楽の花を、(庭のように)気軽に探索できるように」という願いが込められたCMGは、サントリーホール館長で日本を代表するチェロ奏者・堤剛の提唱により、ホール開館25周年に当たる2011年に開園し、今やサントリーホールの自主事業を代表する企画へと育まれました。室内楽の楽しさを伝え、更なる普及を目指すプロジェクトとして開催してきた公演数は250強、約7万人弱のお客様にご来場いただいています。会場となるのは、サントリーホールのブルーローズ(小ホール)。CMGでは舞台が客席に囲まれる配置を採用し、客席数380ながらもお客様と演奏家の距離が近くて親密です。室内楽の醍醐味を味わうにはこの距離感が大切で、客席から演奏者同士の表情、視線、息づかいまでも感じることができます。落ち着いたサロンのような雰囲気、舞台と客席が一体となる特別な空間です。



© 嶋島徳恭

多彩なラインアップを誇るCMGの中核を成す企画は、「弦楽四重奏のバイブル」と名高いベートーヴェンの全16曲を5~6公演で演奏する「ベートーヴェン・サイクル」です。世界の名だたるカルテットが高い頂に挑んできましたが、技術・経験・体力・気力が充実している団体がひたすらベートーヴェンに向き合う、国際的にみても稀な企画です。全公演にご来場されて作曲家の人生を辿る壮大な旅に没入するお客様も多数いらっしゃり、もちろん1公演でもカルテットの魅力を存分に味わうことができます。

国内外の第一線で活躍する音楽家たちが披露するアンサンブルの魅力は枚挙に暇がありませんが、CMGには、

サントリーホールが運営する室内楽アカデミーのフェロー(受講生)たちの躍動が欠かせません。このアカデミーは2010年に開講し、葵トリオのメンバーやカルテット・インテグラなど国際コンクールの受賞者を輩出。直近では23年5月に大阪国際室内楽コンクール2023弦楽四重奏部門で第2位を受賞した「ほのカルテット」が第7期フェローとして在籍しています。現在は7団体26名を迎え、1期2年にわたり「指導」と「演奏の機会」の両輪で成熟を促し、音楽家としての「引き出し」を増やすサポートをしています。

館長の堤剛は「室内楽はクラシック音楽の原点」と語りますが、海外の一流オーケストラの団員は若い頃から日常にお互いを聴き合う室内楽を演奏し、規模が大きなオーケストラでもアンサンブルが巧みです。日本における室内楽の重要性は徐々に高まり、取り組む音楽家も増加傾向にあります。サントリーホールはCMGを開催することで継続的に庭を耕し、土壌を豊かにして室内楽の輪を広げていきたいと考えています。

小さな会場で開催される親密なアンサンブルに興味があれば、クラシック音楽をより深く多面的に味わうことができます。この情報誌をご覧になられている方であれば、既に室内楽の魅力にお気づきの方も多くいらっしゃるでしょう。室内楽の活性化は、音楽文化の底上げに直



結するので、(CMGのみならず)「音楽の最も土台となるアンサンブル」をより多くのお客様にご鑑賞いただきたいと心から願っています。

(公益財団法人サントリー芸術財団 サントリーホール 企画制作部長 中鉢智博)

■公演情報

サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン 2024
期間 2024年6月1日(土)~16日(日) 全21公演
会場 サントリーホール ブルーローズ
問合せ サントリーホールチケットセンター
0570-55-0017(10~18時、休館日を除く)

主な企画 小山実稚恵&堤剛 ベートーヴェン:チェロ・ソナタ全曲
ウェールズ弦楽四重奏団 ベートーヴェン・サイクル
CMGプレミアム 小菅優プロデュース『月に憑かれたピエロ』
主な出演者 ヴォーチェ弦楽四重奏団/ダネル弦楽四重奏団/エルサレム弦楽四重奏団
ピアノ三重奏:葵トリオ フルート:セバスチャン・ジャコー ハープ:吉野直子



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスタワー8F TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2024年1月
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編集 上田英司
デザイン 松井桂三 有限会社

